



今年も残すところあと1か月となりました。12月は冬休みやクリスマスなどが楽しみですね。さて、博物館では12月10日から特別展「うなぎの旅展」を開催します。様々なうなぎの展示を観覧し、クリスマスに家族でうなぎ料理を食べるのも、良いかもしれませんね。ぜひ、皆様のご来館をお待ちしています。

特別展「うなぎの旅展」

令和4年12月10日(土)～令和5年1月29日(日)

※12月29日～令和5年1月1日は休館します。

今月号では、特別展の展示について、紹介するよ!

みんなは、ウナギは知っているかな? 鰻重はおいしいよね。

ウナギを見ると食べたくなっちゃうな。



さんちゃん



いのたん

オオウナギの实物を見ることが出来るよ。



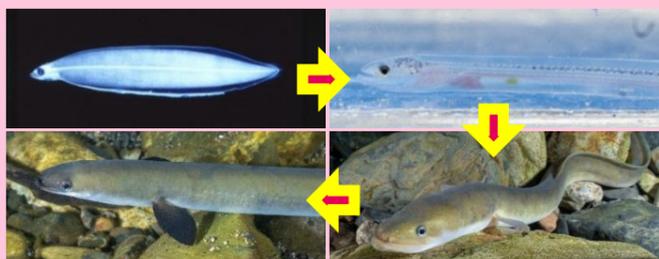
銀ウナギ



オオウナギ剥製

ウナギの赤ちゃんから親まで生きた状態を見ることが出来るよ。

レプトケパルス(ウナギの赤ちゃん) シラスウナギ(子ども)



銀ウナギ(親ウナギ)

黄ウナギ(成長期)

世界のウナギが全種勢ぞろい。



世界のウナギの
標本を一挙に
紹介

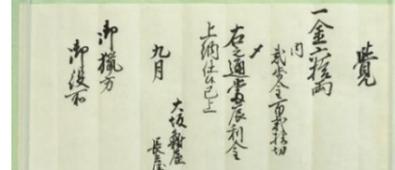
VR映像でウナギ漁のドキドキを体験できるよ!!



ウナギに関する古文書も展示するよ。



左:小倉藩主細川忠利が曾根のうなぎを捕るように命じたことの記録
公益財団法人永青文庫所蔵



右:大阪の商人が柳河藩にうなぎの利益の一部を納めたことを示す文書
立花家史料館所蔵 ※国指定重要文化財



黄ウナギ



ウナギってどこで暮らしているのかな?



ミュージアムのタネ

季節と生き物(秋)

季節によって、活動する生き物は異なります。多くの生き物は暖かいときに活動しますが、寒い冬にしか活動しないフユシャクガのような生き物もいます。秋は、多くの生き物にとって越冬の準備を行う季節です。

夏が終わり、セミの鳴き声が聞こえなくなってくると、今度はコオロギなどバッタの仲間の姿や鳴き声が目立つようになります。バッタの成虫は冬になると死んでしまうため、成虫になり成熟した個体が現れる秋が多くのバッタにとって繁殖期です。そのため、秋に求愛のための鳴き声が多く聞かれます。もちろん、夏から鳴く種もいます。博物館のある東田地区でも、草地のある場所では、いろいろな虫の鳴き声を聞くことができます。

バッタの仲間は、ショウリョウバッタ、トノサマバッタやコバネイナゴなどのバッタの仲間(バッタ亜目)と、コオロギ、スズムシやクツワムシなどのキリギリスの仲間(キリギリス亜目)に分けられます。

違いは、バッタの仲間が「触角が短い」「耳を持つものでは、耳が腹の付け根にある」「メスの産卵管は長くない」に対し、キリギリスの仲間では「触角が長い」「耳を持つものでは、耳が前足にある」「メスが産卵管を持つ場合は針状」という特徴があります。



バッタの仲間



キリギリスの仲間

鳴き声として目立って聞こえるのは、ほとんどがキリギリスの仲間のもので、この仲間は翅をこすり合わせることで音を出します。鳴き声は、それぞれの種に特有のもので、

秋は涼しくなり外出しやすい季節で、虫の鳴き声も聞こえる時期となります。一方で、冬越しの準備をする生きものはバッタの仲間だけではありません。

意外なところで、スズメバチの仲間では、秋が重要な季節となります。新しい女王バチと雄バチが生まれてくる季節となるためです。そのため、スズメバチに刺される事故は秋になっても多く起こります。

自然史課学芸員 蓑島悠介